

MSM を対象とした、HIV/STIs 即日検査相談の実施及び innovative な検査手法の開発

◎研究協力者 星野 慎二 （特定非営利活動法人 SHIP）
研究協力者 吉村 幸浩 （横浜市立市民病院 感染症内科）
研究協力者 宮島 真希子 （東京慈恵会医科大学附属病院 感染症科）
研究協力者 李 広烈 （東京慈恵会医科大学附属病院 感染症科）
研究協力者 沢田 貴志 （港町診療所）
研究協力者 佐野 貴子 （神奈川県衛生研究所）
研究協力者 近藤 真規子 （株式会社ハナ・メディテック）
研究協力者 井戸田 一朗 （しらかば診療所）

研究要旨

MSM (men who have sex with men)を限定とした HIV/STIs 即日検査相談を実施することにより、検査相談を受検した MSM の特徴と背景及び、HIV 感染率の推移を把握し、受検者の特徴と背景、HIV 感染率を明らかにすることで、神奈川県地域の MSM に対する HIV/STIs 予防対策の策定に有用な情報を得る事を目的とする。

昨年度に引き続き、2023 年 4 月から 2024 年 1 月までに毎月 1 回実施した。
実施回数は計 10 回で、述べ 140 名が受検し、陽性者数は、HIV 抗原・抗体（確認検査で確認）2 名（1.43%）、梅毒 TP 抗体 18 名（12.86%）、HBs 抗原 3 名（2.14%）であった。受検者の背景は、MSM が 100%、神奈川県内居住者が 67.9%を占め、最多年齢層は 25-29 歳が 22.9%であった。SHIP の検査相談を過去に受検したことがある受検者は 96 名 76.2%であった。

また、当検査では検査日の 2 週間前からインターネットによる予約受付を行っているが、毎回、予約開始から 1 日で定員に達していることから、MSM に親しまれ長期に利用されるサービス枠組みを有すると示唆された。

A.研究目的

厚生労働省エイズ発生動向における感染経路別割合では男性同性間の性的接触が約 7 割を占めているが、こうしたことが起こる背景としては、MSM の多くは自分が同性愛者であることを学校や職場の仲間、家族にも伝えることができず、自分自身のことを隠し偽り、“異性愛者”を装って生活している。そのことがストレスとなり、成人後のメンタルヘルスに大きく影響し、HIV 感染リスクの高い性交渉との関連が先行研究で指摘され

ている。

また、MSM の中には過去に HIV 検査を受けたことがありながら感染してしまう人が少なくない。このように検査のリピーターが感染してしまう背景として、情報や知識だけでは行動変容に結びつかないことが考えられる。行動変容を起こしてもらうためには検査のときのカウンセリングを通じて自己の行動を振り返る作業が重要と考えられる。

本研究では、横浜市内で MSM 向けコミュニティ

センターの運営で実績のある特定非営利活動法人 SHIP の協力を得て、MSM 向けの自発的 HIV/STIs 即日検査相談 (HIV 抗体、梅毒 TP 抗体、HBs 抗原) を実施し、その受検者の特徴と背景を明らかにし、HIV 感染率の推移を把握する。

B.研究方法

前年度に引き続き 4 月から 1 月まで毎月 1 回、計 10 回、定員 15 名の即日検査を実施した。

検査日の 1 週間前からインターネットによる予約制とし、受検者同士が顔を合わせる機会を最小限にする配慮をした。検査前に下記の項目を含むアンケートを実施した。属性、肝炎ワクチン接種有無、HIV 検査受検歴の有無、心配な性的接触の内容等。インフォームド・コンセントを得た後、看護師等による検査前の相談と採血を実施。

その後、臨床検査技師等による検査を施行後、医師による結果告知と検査後相談を実施した。

HIV 抗原・抗体検査にはダイナスクリーン[®]HIV Combo を、梅毒検査にはダイナスクリーン[®]TP Ab を、B 型肝炎検査にはダイナスクリーン[®]HBsAg 2 Plus を用いた。

ダイナスクリーン[®]HIV Combo が陽性だった場合は、確認 IC 法 (Geenius HIV 1/2 キット) 及び PCR 法による確認検査を神奈川県衛生研究所にて追加して実施し、検査相談実施 1 週後に確認検査結果を医師が SHIP の事務所で受検者に告知した。

(倫理面への配慮)

MSM 限定の HIV/STIs 検査については、2012 年に慶應義塾大学医学部の倫理審査委員会で審査承認されている。

また、対象者には事前に本分担研究の目的と研究報告書等に記載することを説明してから実施した。また、本検査相談は無料匿名であり、さらに回答者自身のプライバシーへの配慮のため、アンケートの集計にあたっては、数値化することにより、個人を特定できないよう配慮している。

C.研究結果

前年度に引き続き 2023 年 4 月から 2024 年 1 月までに計 10 回の検査を実施した。10 回のうち予約人数は 150 名で、実際の受検者数は 140 名であった。

① 月別検査予約数と受検者数の推移

予約はインターネットで、過去に当施設で検査を受けた事がある人は 2 週間前から、それ以外の人は 1 週間前から開始しているが、毎回、予約開始から 1 日で予約が一杯になっている。予約システムは定員に達した時点で、受付を停止するため、予約できなかった人数をカウントすることができないが、検査を希望しながら予約できなかった人はいると思われる。

10 回の述べ予約数 150 名で、実際の受検者数は 140 名で、そのうち ID カードの提示より当検査のリピーターと確認できた受検者は 91 名 (64.0%) であった。(図 1)

② 受検者背景

受検者 140 名のうち、過去に HIV 検査を受けたことがある人は 125 名 (89.3%) で、初めて HIV 検査を受けた人は 14 名 (10.0%) であった。(図 3)

過去に HIV 検査を受けたことがある 126 名に前回の受検した施設を尋ねたところ 96 名 (76.2%) が当検査で検査を受けた。

また、保健所で受けた人が 11 名 (8.7%)、クリニック 8 名 (6.3%)、病院 4 名 (3.2%)、イベント検査 4 名 (3.2%) 東新宿検査場 1 名 (0.8%)、その他 2 名 (1.6%) であった。(図 4)

年齢別の最多は 25-29 歳が 32 名 (22.9%) であり、第 2 位は 40-44 歳代 22 名 (15.7%) であった。(図 5)

居住地構成では、横浜市が 70 名 (50.0%) と最多で、東京都 35 名 (25.0%)、神奈川県域 (横浜・川崎以外) が 19 名 (13.6%)、川崎市 6 名 (4.3%)、埼玉 4 名 (2.9%)、千葉 3 名 (2.1%) と、県外からの利用者が 30.0% を占めていた。(図 6)

受検動機は、「性的接触」による心配が 65 名 (37.6%)、「念のため」が 94 名 (54.3%)、「症状

が出た」が8名(4.6%)、「針刺し」3名(1.7%)、「その他」3名(1.7%)であった。(図7)

③ 気になる性的接触について

受検動機で「性的接触」と回答した65名に対して性行動のアンケート調査を行ったところ、初めての相手が44名(67.7%)、いつもの相手が13名(20.0%)、出張ホストが5名(7.7%)であった。また、そのときのコンドームの使用状況では、オーラルセックスのときにコンドームを使わなかった59名(90.8%)、アナルセックス(ウケ)のときにコンドームを使わなかった15名(23.1%)、アナルセックス(タチ)のときにコンドームを使わなかった26名(40.0%)であった。

(図8)

④ 当検査場を選んだ理由(有効回答140名)

当検査場を選んだ理由の調査(複数回答)では、「直ぐに結果が分かるから」116名(82.9%)、「梅毒・B型肝炎も受けられるから」108名(77.1%)、「曜日と時間帯が受けやすい」57名(40.7%)、「ゲイ専用なので」56名(40.0%)、「場所が近いから」56名(40.0%)、「前に受けたから」41名(29.3%)、「その他」0名、「他の検査場が分からない」0名であった。

(図9)

⑤ 満足度調査(有効回答140名)

事後アンケートにおいて、「役に立つ知識が得られた」と答えた人は123名(87.9%)で、「知人・友人にこの検査をすすめたいと思いますか」の質問で、「すすめる」92名(65.7%)、「話してみたい」20名(14.3%)であった。(図10)

⑥ HIV/STIs 検査結果

陽性者数は、ダイナスクリーン[®]によるHIV抗体(後に確認検査で陽性と確認)2名(1.43%)、梅毒TP抗体18名(12.86%)、HBs抗原3名(2.14%)であった。(図1)

HIV陽性2名のうち、1名は当検査を2019年

から定期的に受検して今回の検査で陽性に転じ。他1名は生涯受検歴なしで、HIVと梅毒の重複感染であった。また、HIV陽性の2名には医療機関を紹介し、医療機関からの受診報告書により受診していることを確認できた。

(図2)

D.考察

IDカードの提示より当検査のリピーターと確認できた受検者は91名(64.0%)であった。また、リピーターのうち、過去3年以内に3回以上の受検者は25名(27.5%)であった。

事後アンケートにおいて、87.9%の受検者が役に立つ情報が得られたと答え、80.0%がSHIPの検査を知人に「すすめたい」「話してみたい」と答えていることから、利用者の満足度は高く、MSMに親しまれ長期に利用されるサービス枠組みである可能性が示唆された。(図10)

その一方で、予約開始から1日で定員に達していることから、更なるニーズに応えるには定員の増加、または検査回数の増加が必要とされる。しかし、SHIPは専用の検査施設を持っていない。検査相談に用いる多岐に渡る物品と資材は、通常はSHIPの事務所で保管され、検査の度に、少ない人的資源で、検査会場に運搬・移動・設置している現状では、検査回数を増やすことは難しい。そのため、上記を解決できる恒久的な検査施設を探すことが今後の課題とされる。

E.結論

なし

F.健康危険情報

なし

G.研究発表

なし

H.知的所有権の出願・登録状況(予定を含む)

なし

図1 月別受検者数と検査結果

月	予約数 (人)	受検者数 (人)	リピーター (人)	HIV(+)	TPHA(+)	HBsAg(+)
4月	15	16	10	0	2	0
5月	15	15	11	0	2	2
6月	15	15	12	0	1	0
7月	15	14	11	0	0	0
8月	15	12	6	0	3	0
9月	15	15	8	1	3	1
10月	15	12	7	0	1	0
11月	15	13	9	0	4	0
12月	15	15	8	0	0	0
1月	15	13	9	1	2	0
合計	150	140	91 (64.0%)	2 (1.4%)	18 (12.9%)	3 (1.4%)

* IDカードにより確認することができたリピーター数を示す。

* 定員は各回15人。

図2 リピーターの受検回数、梅毒の既往歴

(1) HIV陽性の検査結果

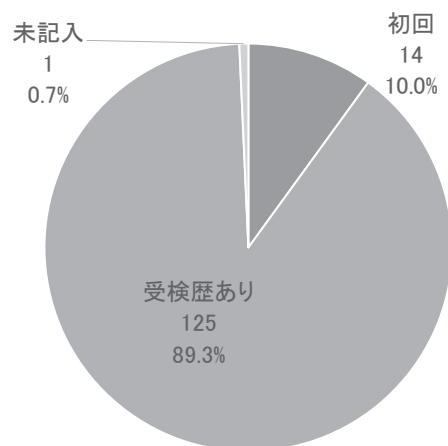
検査日	年齢	HIV抗体	HIV抗原	TPHA	HBsAg	確認検査	告知日	受診状況
2023/9/25		+	-	+	-	+	10/2	受診
2024/1/29		+	-	-	-	+	2/5	受診

(2) 梅毒(TP抗体)・B型肝炎(HBs抗原)の内訳

当検査の受検歴	HIV	TP抗体	HBs抗原
初回	1	8	1
リピーター*	1	10	2
計	2	18	3

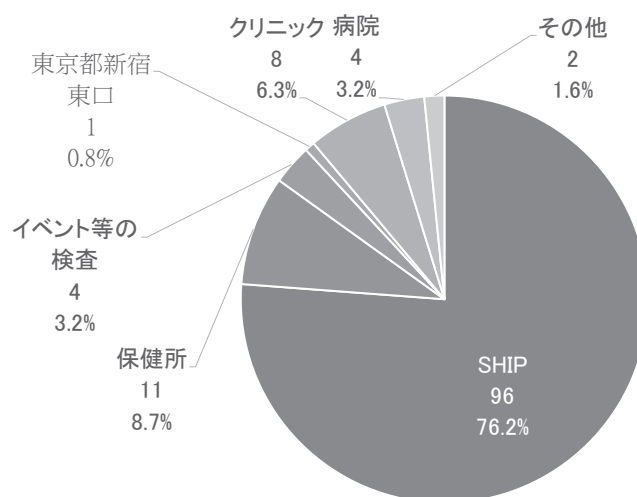
* IDカードにより確認することができたリピーター数を示す。

図3 HIV受検歴



N=140

図4 前回の受検施設 (受検歴有り126人)



N=126

図5 年齢別構成

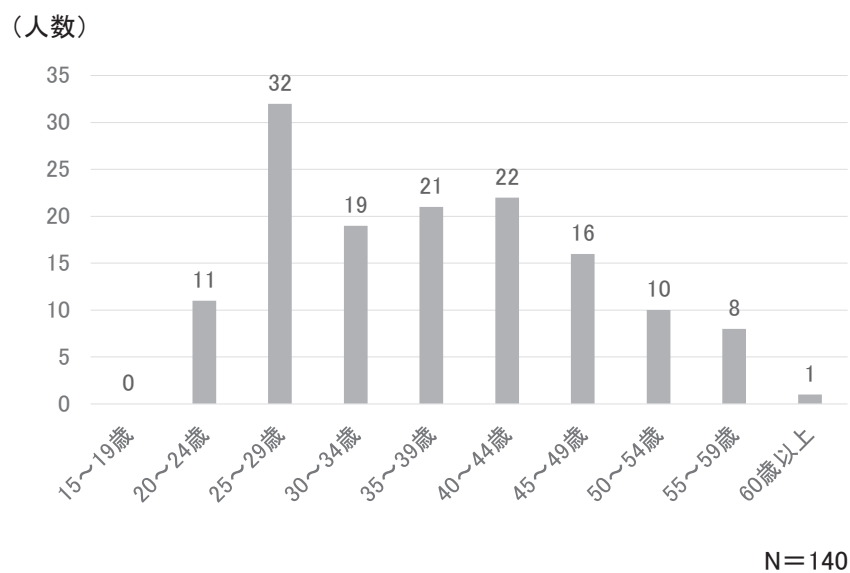


図6 居住地構成

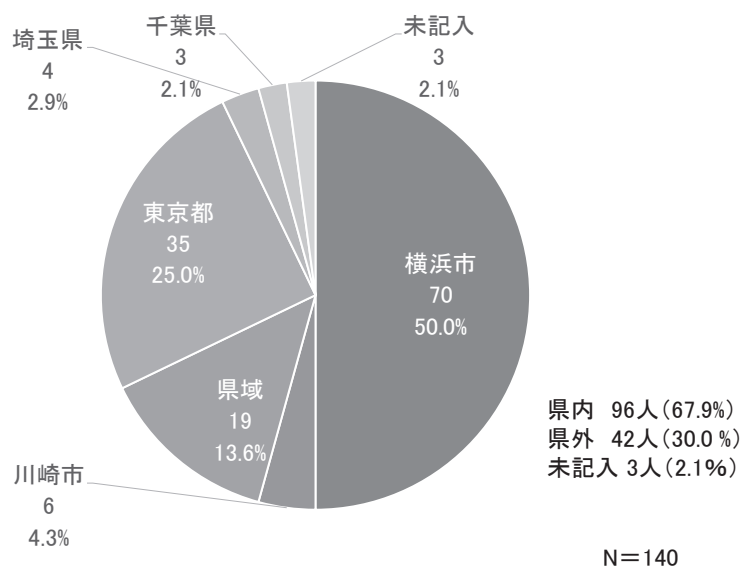
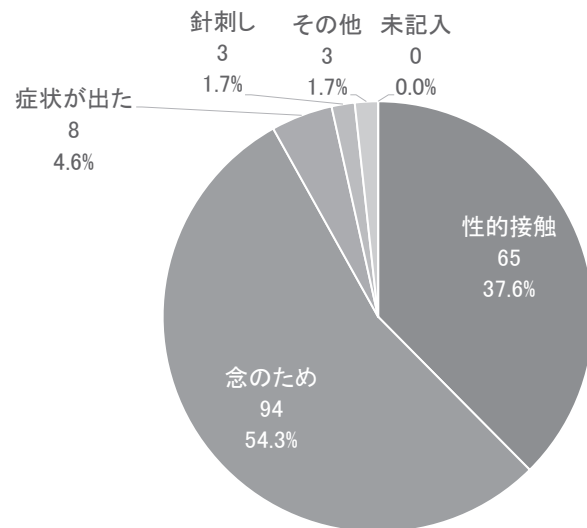


図7 受検動機（複数回答）



N=140

図8 気になる性的接触の相手との関係と
コンドーム利用状況（受検動機：性的接触 65名）

（1）気になる性的接触の相手との関係

いつもの相手	初めての相手	出張ホストなど	未記入	合計
13 (20.0 %)	44 (67.7 %)	5 (7.7 %)	3 (4.6 %)	65 (100 %)

（2）気になる性的接触のコンドーム利用状況

	しなかった	使った	使わなかった	未記入	合計
オーラル	3 (4.6 %)	1 (1.5 %)	59 (90.8%)	2 (3.1 %)	65 (100%)
アナル(ウケ)	28 (43.1 %)	15 (23.1 %)	15 (23.1 %)	7 (10.8%)	65 (100%)
アナル(タチ)	23 (35.4%)	10 (15.4%)	26 (40.0%)	6 (9.1%)	65 (100%)

図 9 当検査を選んだ理由（複数回答）

当検査場を選んだ理由 (事後アンケート回答者数 140人)

選んだ理由	人数	(%)
直ぐに結果が分かるから	116	82.9%
梅毒・B型肝炎も受けられる	108	77.1%
曜日と時間帯が受けやすい	57	40.7%
ゲイ専用なので	56	40.0%
場所が近いから	56	40.0%
前に受けたから	41	29.3%
他の検査場が分からない	0	0.0%
その他	0	0.0%

図10 満足度調査 (事後アンケート 回答者数 140人)

(1) 役に立つ知識を得られましたか？

項目	人数	(%)
得られた	123	87.9%
得られなかった	2	1.4%
(空白)	15	10.7%

(2) 知人・友達にこのSTD検査をすすめたいと思いますか？

項目	人数	(%)
すすめる	92	65.7%
すでに受けている	3	2.1%
わからない	19	13.6%
話してみたい	20	14.3%
話す気はない	4	2.9%
(空白)	2	1.4%